

絵本を見て考える人間関係論

—— ヤングケアラーの問題を中心に ——

林 伸 一

1. はじめに

林（2024）は「絵本や紙芝居に見るヤングケアラーの問題」というテーマで、ヤングケアラーと子供の人権について、モーリス・センダック著『父さんがかえる日まで』、斎藤隆介・作／滝平二郎・絵の『花さき山』と『モチモチの木』などの絵本を題材にして論じている。本稿では、ヤングケアラーの問題を含む人間関係論として、枠を拡げて論じていきたい。

筆者は山口県教育カウンセラー協会の活動に関わり、非常勤講師として、看護学校で「人間関係論」と「地域社会」を担当し、短期大学で「比較文化概説」を担当している。参加学生の「ふりかえりシート」に書かれた、気づいたこと、感じたこと、考えたことをもとに論じていきたい。

一方的な講義で「人間関係論」や「比較文化概説」を扱っても、あまり受講生に関心を持ってもらえないので、絵本の中に見られる諸問題を探してみる試みを行ってきた。以下に専門学校と短期大学での講義と受講生の反応から、問題点を洗い出してみたい。

2. 『父さんがかえる日まで』再考



モーリス・センダック（Maurice Sendak, 1928-2012）の『父さんがかえる日まで』を山口県内の短期大学生に、リレー朗読の形で読んでもらったところ、以下のようなコメントが寄せられた。

読む前に表紙だけを見せて、どんな内容か二人一組のペア・ワーク形式で想像してもらい、話し合った。タイトルから父親が戦争に行き、家族がいろんな苦勞をする話だと推測する学生もいた。確かにウクライナ戦争や中東での戦時下で考えられることである。

読後にもペア・ワーク形式で気づいたこと、感じたこと、考えたことを話し合い、その内容を「振り返りシート」に記入してもらった。それまで学生が受けた授業が、一方的な講義形式の斉授業が多かったためか、二人一組のペア・ワークの対話形式に馴れない学生も見受けられた。

2-1. 『父さんが帰る日まで』に対する短期大学生からの反応（2024年）

- * 『父さんが帰る日まで』の自分たちの考えを伝えあうということは、初めての体験で、驚きました。何故なら作者の意図は、作者によると考えていたからです。そして、読後の感想は、各々で、感じ方や思いに違いがあり、その空想の中で遊ぶのだと思っています。絵本にも作曲のように作者自身のことが大きく関係していることを学びました。（年齢無記入・女性）
- * 『父さんが帰る日まで』の絵本は、すばらしい絵本だと思いました。（19歳・女性）
- * 絵本『父さんが帰る日まで』を読む前と読んだあとでは、考えが変わって、すごく絵本っておもしろいなと思いました。（年齢無記入・女性）
- * 日本の絵本を見る人が多いので、外国の本を見てとても勉強になりました。絵本の内容を気にして読むということは、あまりしていなかったので、とても勉強になりました。不思議な絵本で、誤解を解くのにとても大変でしたが、勉強になりました。（19歳・女性）
- * 『父さんが帰る日まで』の絵本のストーリーを読み解くことは難しく、かなり創造性を働かせなければ、作者の意図がくみ取れないが、そこには問題提起がされており、読者にも考えさせる機会を作っている事が、分かりました。
(年齢無記入・女性)

上記の「作者の意図は、作者によると考えていた」というのは、作品が作者の意図に支配されたものと考えられる伝統的な「作品論」の影響によると思われる。また「絵本にも作曲のように作者自身のことが大きく関係している」というのは、音楽の分野で作曲者論とその作品論の関係のことであろう。ここでは、絵本も文学作品としてテキスト論の立場に立って、「各々で、感じ方や思いに違いがあり、その空想の中で遊ぶ」という自由な解釈と寛容性を尊重する立場を基本としたい。

「日本の絵本を見る人が多いので、外国の本を見てとても勉強になりました」との記述から、絵本の上での文化比較が可能であることがわかる。上記のように「不思議な絵本で、誤解を解くのにとても大変でした」との振り返りは、日米の文化的な差異が関係しているのかもしれない。

また、「絵本のストーリーを読み解くことは難しく、かなり創造性を働かせなければ、作者の意図がくみ取れない」と感じた学生がいた。絵本の中には「問題提起がされており、読者にも考えさせる機会を作っている事が、分かりました」と記されている。

「教える➡学ぶ」という一方行だけでなく、「空想の中で遊ぶ」、主体的に問題を考えるための教材として、絵本『父さんが帰る日まで』は有用であると言える。

2-2. 『父さんが帰る日まで』のヤングケアラーとしての問題提起

- * 『父さんが帰る日まで』の絵本について、最初にどんな話なのか、ペアの人と想像して、初めは、全く思いつかなかったけど、考えて想像を膨らませることができた。作者の赤ちゃんの頃の話で、実際はヤングケアラーの問題だったのでは？という所から、姉がお父さんの代わりに、家のことを、お母さんのことを、妹のことを面倒見ている姿を描いていて、想像が広がる絵本だと感じました。絵の描き方によって、読み手に伝わるように工夫していると思いました。(20歳・女性)
- * 『父さんが帰る日まで』の絵本の物語は、先生が指摘されるようにヤングケアラーの問題を扱っているということは、当たっていると思った。(70歳・男性)
- * 絵本の挿絵に込められた意味がちゃんとあるのだなと思いました。作中のアイダが身に着けていた母のレインコートには、「自分たちに気づいて、守って」という思いがあったのかなと思いました。(19歳・女性)

『父さんが帰る日まで』の絵本は、モーリス・センダックの幼少期のチャールズ・リンドバーグの子ども誘拐事件をもとに書かれており、まったくのお伽噺ではない。(詳細は、林2021参照)

「かなり創造性を働かせなければ、作者の意図がくみ取れない」というよりは、作品の背景知識がないと作者の意図がくみ取れない面もあると言ったほうがいだろう。その点では、作者の考えに規定される作品論の見方もあると言える。

上記の「作中のアイダが身に着けていた母のレインコートには、『自分たちに気づいて、守って』という思いがあった」という指摘も鋭い。「母のレインコート」を身にまとして、赤ちゃんを取り戻しにいくという姿が、親代わりに自分の妹を助け出すという意味を表現しているのであろう。また、そのレインコートとホルンの色が、黄色というのにも意味がありそうである。日本の小学生もランドセルに黄色いカバーをかぶせて、交通事故から身を守ろうとしている。交通信号も「黄色は注意」が必要であることを表わす。

色彩心理学の実験では「黄色は人間の恐怖心を取り除く力がある」(大島1995)ことが示されたという。大島(1995)は、山田洋次監督、高倉健・倍賞千恵子主演の『幸福の黄色いハンカチ』を例に出して、「黄色は、希望、幸福、健康を象徴する色」としている。また、「黄色を好む人は精神的な冒険を好むといわれていますが、その一方で、情緒不安定な人が助けを求める色ともされています」と述べている。

『父さんが帰る日まで』の絵本の主人公アイダは、裸足で野山を歩き回り、「黄色を好み、精神的な冒険を好む」少女である。一方で誘拐犯のゴブリンに対して、不安な

気持ちを抱き、母の黄色いレインコートを身にまとうことで、SOSを発信しているとも言えるだろう。

虐待されている子どもやヤングケアラーが発しているSOSを見逃している大人が多いのではないかという問題提起が含まれているとも考えられる。

その点、アイダの父親は、アイダのSOSに気づき、「アイダよ、うわのそらのアイダよ、よそ見しないで、くると向きをかえれば、ゴブリンたちが見つかるぞ！ 得意のホルンをやつらに吹いてごらん」と遠い海の向こうから、歌ってくれるのである。「くると向きをかえれば、ゴブリンたちが見つかるぞ！」との指摘は、八方ふさがりの時に「見方を変えれば、悩みは消える」「発想を変えると人生がひらける」と考える論理療法に通じる発想である。(詳しくは国分、1995a参照)

たとえ、離れていても頼りになる父親が役割を果たしている。主人公のアイダは、思いやりがあり、自己肯定的な認識がある。絵本の中の行動や表情から、意志は強いが、人懐っこい性格の持ち主でもあるように見受けられる。

2-3. 『父さんが帰る日まで』の親の育児放棄について

- * アイダと妹が育児放棄されていたとは予想外でした。(19歳・女性)
- * 『父さんが帰る日まで』の絵本の内容が、すごく深く、アイダがすこし可哀そうでした。お母さんが、なんで何もしないのか、最初は分からなかったけど、わかったときは、すごく複雑な気持ちになりました。(19歳・女性)
- * 『父さんが帰る日まで』を読んで、昔からこういう絵本が出ているので、昔から育児放棄などがあって、昔から変わらない問題なのだなと思いました。(19歳・男性)
- * 育児放棄は、時代を問わず、昔も今もある、存在するのだなと感じた。(70歳・男性)

自分の弟や妹のめんどろを見るのが当たり前だと家族内で教育されてきた中で、「アイダと妹が育児放棄されていたとは予想外でした」ということになるだろう。何もしない母親が、育児放棄であることも「わかったときは、すごく複雑な気持ちになりました」と記されている。

一方、上記の男性二人は、育児放棄を「昔から変わらない問題」と一般化してしまっている。そうすると現代のヤングケアラーの問題も鮮明には見えてこないのではないかと思われる。確かに「育児放棄は、時代を問わず、昔も今もある」のであるが、少子化という時代背景の中で、時代的な価値観が異なる中では「育児放棄」も、昔とは意味合いが異なってくる。

2-4. 『父さんが帰る日まで』から考えるヤングケアラーと親の関係

*絵本を読んで、姉が妹・弟のめんどうを見させられるというのは、私がそうなので共感できる。たまに思うのは、両親が子どもがほしくて生んでいるわけなのに、なぜ押し付けられないといけないのかと思う。でも保育・幼稚園の先生になるなら（目指してるなら）それぐらいやれというけれど、私は先生になるとは言っていないし、言ったつもりもない。だから、都合よく解釈することは、よくないなと思う。(19歳・女性)

上記の「両親が子どもがほしくて生んでいるわけなのに、なぜ押し付けられないといけないのか」というヤングケアラー側からの不服申し立ては、もっともな本音の発露である。

林 (2024) は、「医師や看護師、介護士、ケースワーカー、カウンセラーなど援助職（ケア職）に向いている特性がヤングケアラーに見られることがある」と指摘している。勿論、ある人が「援助職（ケア職）に向いている」からと言って、ケア職に就かなければならないということにはならない。

援助職（ケア職）の範囲を保育・幼稚園の先生にまで広げ、さらに親子関係をからめると、上記の女性（19歳）のような問題となる場合がある。

親子関係というと、親から目線で問題が固まってしまっていて解決の糸口が見いだせない場合がある。そのような場合に、国分 (1995b) は、「子親関係」というコトバで考えることを提案している。つまり、子から目線で、親のことを考えてみることを提案している。ルビンの壺のように見方を変えれば、同じ絵（人間関係）でも、違った絵（人間関係）に見えることがある。

「親子関係という場合は、親が子どもにどうかかわっていくかという育児法・教育法を示唆することが多い。ところがこれからの時代は、子どもが老親にどうかかわっていくかを考えなければならない時代である」。(国分1995b 参照)

親の子どもに対する期待と子どもの親に対する役割期待が噛み合わないときに、子どもは親のことを「毒親」と言ったりする。「毒親」という言葉が独り歩きしているような感があるが、中野 (2020) は、『毒親—毒親育ちのあなたと毒親になりたくないあなたへ—』の中で、次のように毒親を定義している。

「気づかれにくい虐待—心理的なネグレクトや、精神的な虐待、過度の干渉によって子を支配しようとするなど、まさに子どもの成長にとって『毒』となる振る舞いをする親のこと」(p.18)

また、中野 (2020) は、毒親、というのは、「自分に悪影響を与え続けている親そ

の人自身」というよりも、「自分の中にあるネガティブな親の存在」、といったほうが適切かもしれないと述べている。(詳しくは、林2024参照)

こども家庭庁では、令和4年改正児童福祉法により新設された「親子再統合支援事業」が2024年4月から施行されたことから、都道府県等が親子関係の再構築支援を行うために取り組むべき体制整備の在り方などを記載した、「親子関係再構築のための支援体制強化に関するガイドライン」を作成し、都道府県等に周知している。

3. 『花さき山』再考



斎藤隆介・作／滝平二郎・絵の『花さき山』は、1969年に岩崎書店から発行され、2024年末で121万部を超えるロングセラーの絵本である。大型絵本だけでも1万部出ている。

当時、子どものための話には、向日性が求められ、明るい色彩が好まれていたため、「黒い表紙の絵本」は、小さな物議をかもしましたが、幸いにしてこの絵本は、そのタブーをうち破る作品となり、翌年(1970年)から始まった講談社出版文化賞の「第1回ブックデザイン賞」を受賞した。(岩崎書店『花さき山』50周年/「絵本『花さき山』が出来るまで」<https://www.iwasakishoten.co.jp/special/hanasaki>参照)

貧しい村の娘あやが山に山菜採りにやってくると、山姥(やまんば)に遭遇する。

『花さき山』で、山姥があやに語りかける場面は、背景が黒になっているが、途中の回想シーンの妹が赤い着物をねだる場面やそれを着て喜んでいる場面は背景が白くなっている。また、あやが山から帰って両親に報告している場面以降は、背景が白または薄い黄色となっている。山姥が登場した場面から背景が黒に暗転したと言ってもいいだろう。中表紙の「花さき山」という題字とともに籠をかつぎ、草刈鎌を手に持ったあやが登場し、山の道を右から左へと歩いていく絵(縦書きの順勝手または本勝手)が描かれている。それが主人公あやの登場場面でもある。(注1)

「おどろくんでない」という山姥の発話から始まる第1場面では、あやは描かれていない。山姥は左側から登場し、まだ読者には背を向けており、顔が見えない。暗闇の中に突如として出現した山姥は顔も見えず、白髪のを振り乱したその姿は、恐ろしい印象を受ける。ちょうど映画館の中に入った時点では、周りが見えず、スクリーンだけがはっきりと見えるような状態に似ている。

中表紙に描かれたあやが進む先に突如として行く手をふさぐように出現した山姥は、演劇や紙芝居で言えば、逆勝手の位置になる。日本の絵巻物の「敵や予期せぬ人物は逆勝手で登場する」という空間図式に当てはまる。山姥は、あやにとっての敵で

はなく「予期せぬ人物」である。(注2)

第二場面では、驚いたあやが右頁に描かれている。映画館の中で、ようやく目が慣れて、客席の側の様子がわかるようになったようにあやのびっくりした様子が描かれている。滝平の絵の演出か、編集者の演出かは定かではないが、遭遇して相対峙している二人を同じ見開き画面に描かずに、それぞれ別の場面に交互に登場させているところが、二人の間の距離感を表現しているのかもしれない。光村図書の『道徳4』では、原画を合成して二人を同一場面に登場させている。(注3)

ようやく第三場面で、山姥の顔が読者の方へ向けられる。「ところがおまえ、おくへおくへときすぎて、みちにまよってこの山サはいつてしまった。したらば、ここにこんないちめんの花。いままでみたこともねえ花がさいているので、ドデンしてるんだべ。な、あたったべ。この花が、なしてこんなにきれいだか、なしてこうしてさくのだから、そのわけを、あや、おめえはしらねえべ。それはこうしたわけだしやー」。(注4) 山姥が言うには、あやが晴れ着を我慢して、妹のために譲るなど良い行いで、森に一輪の花が咲いたという。そこに広がる花は、それぞれ村人の我慢や良い行いの証だという。「人の心の美しさ」を学ぶ道徳教材とされている。

『花さき山』を題材として行なった2024年の授業における短期大学の受講生の反応は、次の通りである。

3-1. 『花さき山』について (短期大学の受講生の反応、2024年)

- * ヤングケアラーについてであるが、兄や姉が自分をおもい殺して、弟や妹にゆづったり、自分のものを与えてきたのは、日本だけのことではなからう。
(70歳・男性)
- * 『花さき山』についての物語を少し理解できて良かったです。(19歳・女性a)
- * 『花さき山』の背景が黒かったり、花は様々な色が使われていてよかった。
(19歳・女性b)
- * 普段気づかないことだし、気づいて楽しかったです。色々、自分たちで考えることができて、楽しかったです。またみんなで絵本を読みたいです。(19歳・女性c)
- * とても難しい言葉が使ってあって、理解に時間がかかりそうだ。
(年齢無記入・女性)

上記の「物語を少し理解できて良かった。(19歳・女性a)」との記述は、「すべてを理解したわけではない」ことを意味する。また「とても難しい言葉が使ってあって、理解に時間がかかりそうだ」との振り返りは、絵本のことなのか、それとも関連する

参考資料（林2021・林2024）のことが、本人に直接確認したところ絵本のことであった。絵が内容理解を助けるはずであるが、絵本の場合、作者の解釈と画家の解釈、読者の解釈が必ずしも一致するとは限らないという問題がある。

4. 『銀河鉄道の夜』に見られる貧困、ヤングケアラーの問題、父親の不在、いじめ



宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』は1924年ごろに初稿が執筆され、晩年の1931年頃まで推敲が繰り返された後、1933年の賢治の死後、草稿の形で遺された。初出は1934年刊行の文圃堂版全集(高村光太郎ら編)である。『銀河鉄道の夜』において、主人公のジョバンニがヤングケアラーに当たり、父親が不在であることから同級生にいじめられている。実際の作品から、問題となる部分を探っていきたい。

上の表紙は、宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』（新潮文庫）であるが、本稿では、青空文庫より文章を引用する。（注5）

『銀河鉄道の夜』の第一話「午後の授業」の中で、次のような場面がある。

「このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちをするのでした」。

なぜジョバンニは「毎日教室でもねむく」なるのか、「本を読むひまも読む本もない」とは、どういう状況に置かれているのであろうか。

それらの疑問は、第二話の「活版所」以降の展開で判明する。

4-1. 『銀河鉄道の夜』の「二 活版所」：児童労働

家へは帰らずジョバンニが町を三つ曲ってある大きな活版所にはいつて靴をぬいで上がりますと、突き当たりの大きな扉をあけました。（中略）

ジョバンニはすぐ入口から三番目の高い卓子(テーブル)にすわった人の所へ行っておじぎをしました。その人はしばらく棚をさがしてから、「これだけ拾って行けるかね」と言いながら、一枚の紙切れを渡しました。ジョバンニはその人の卓子の足もとから一つの小さな平たい函をとりだして向こうの電燈のたくさんついた、たてかけてある壁の隅の所へしゃがみ込むと、小さなピンセットでまるで粟粒ぐらいの活字を次から次へと拾いはじめました。青い胸あてをした人がジョバンニのうしろを通りながら、「よう、虫めがね君、お早う」と言いますと、近くの四、五人の人たちが声もたてずこっちも向かずに冷たくわらいました。

ジョバンニは何べんも眼をぬぐいながら活字をだんだんひろいました。

六時がうってしばらくたったころ、ジョバンニは拾った活字をいっぱいに入れた平たい箱をもういちど手にもった紙きれと引き合わせてから、さっきの卓子の人へ持って来ました。その人は黙ってそれを受け取ってかすかにうなずきました。

ジョバンニはおじぎをすると扉をあけて計算台のところに来ました。すると白服を着た人がやっぱりだまって小さな銀貨を一つジョバンニに渡しました。ジョバンニはにわかに顔いろがよくなって威勢よくおじぎをすると、台の下に置いた鞆をもっておもてへ飛とびだしました。それから元気よく口笛を吹きながらパン屋へ寄ってパンの塊を一つと角砂糖を一袋買いますといちもくさんに走りだしました。

ジョバンニは、学校からすぐに帰宅はせずに、活版所に立ち寄って、仕事をして、その対価でパン屋に寄って、パンの塊を一つと角砂糖を一袋買って、走って帰宅するのである。買い物は、お菓子などのおやつではなく、主食のパンである。ジョバンニの家庭は、ジョバンニの児童労働によって支えられていることになる。家庭内の状況は、次の第三話の「家」に書かれている。

4-2. 『銀河鉄道の夜』の「三 家」：病気の母、父の不在

ジョバンニが勢いよく帰って来たのは、ある裏町の小さな家でした。(中略)

「お母さん、いま帰ったよ。ぐあい悪くなかったの」ジョバンニは靴をぬぎながら言いました。

「ああ、ジョバンニ、お仕事がひどかったろう。今日は涼しくてね。わたしはずうつとぐあいがいいよ」

ジョバンニは玄関を上がって行きますとジョバンニのお母さんがすぐ入口の室(へや)に白い巾(きれ)をかぶって寝(やす)んでいたのです。ジョバンニは窓をあけました。

「お母さん、今日は角砂糖を買ってきたよ。牛乳に入れてあげようと思って」

「ああ、お前さきにおあがり。あたしはまだほしくないんだから」(中略)

「お母さんの牛乳は来ていないんだろうか」

「来なかったろうかねえ」

「ほく行ってとって来よう」

「ああ、あたしはゆっくりでいいんだからお前さきにおあがり、姉さんがね、トマトで何かこしらえてそこへ置いて行ったよ」(中略)

「ねえお母さん。ほくお父さんはきっとまもなく帰ってくると思うよ」

「ああ、あたしもそう思う。けれどもおまえはどうしてそう思うの」

「だって今朝の新聞に今年は北の方の漁はたいへんよかったと書いてあったよ」
「ああだけどねえ、お父さんは漁へ出ていないかもしれない」
「きっと出ているよ。お父さんが監獄へはいるようなそんな悪いことをしたはずがないんだ。この前お父さんが持ってきて学校へ寄贈した巨きな蟹の甲（こうら）だのとなかいの角だの今だってみんな標本室にあるんだ。六年生なんか授業のとき先生がかわるがわる教室へ持って行くよ」

ジョバンニは、第一場面の学校で、教師の問いに対して、気後れしてしまって、返答ができなかったのであるが、我が家の牛乳の不配がわかると、牛乳配達店に行って、不配であることをはっきり申し立て、しっかり牛乳を受け取る場面が出てくる。

父親は、漁師らしいが「お父さんは漁へ出ていないかもしれない」との母親の発言に対して、ジョバンニは、「お父さんが監獄へはいるようなそんな悪いことをしたはずがない」と応答している。もしかすると密漁か何かの理由で捕まったのかもしれないとの不安が背景にあると推察できる。

養育者の不在による不安だけでなく、家庭の経済的な不安もあるだろう。賢治は、『銀河鉄道の夜』に何度も書き直しており、初期の異稿には、ケンタウル祭りの晩なのに「ジョバンニはぼろぼろのふだん着のまま、病気のおっかさんの牛乳の配られていないのをとりに、下の町はずれまで行くのでした」と生活が困窮している様子をうかがわせる描写がある。

さらに異稿には、「あゝもしぼくがいまのやうに、朝暗いうちから二時間も新聞を折ってまわしにあるいたり、学校から帰ってからまで、活版所に行って活字をひろったりしないでもいいやうなら、学校でも前のやうにもっとおもしろくて、人馬だって球投げだって、誰にも負けないで、一生けん命やれたんだ。それがもういまは、誰もぼくとはあそばない。ぼくはたったひとりになってしまった」と書かれている。家計のために活版所の仕事だけでなく、新聞配達の仕事もやって忙しく、みんなと楽しく遊べず、孤独になっているヤングケアラーの様子が描かれている。

4-3. 『銀河鉄道の夜』の「三 家」：父親の不在といじめ

「お父さんはこの次はおまえにラッコの上着をもってくるよ」といってねえ」
「みんながぼくにあうとそれを言うよ。ひやかすように言うんだ」
「おまえに悪口を言うの」
「うん、けれどもカムパネルラなんか決って言わない。カムパネルラはみんながそんなことを言うときはきのどくそうにしているよ」

母親の「お父さんはこの次はおまえにラッコの上着をもってくるといったねえ」という発言に対してジョバンニは、学友が「ひやかすように言うんだ」と訴えている。同級生のからかいが、ジョバンニには「ひやかし」「悪口」と聞こえるのだ。同級生からは「からかい」のつもりが、言われる側にとっては「いじめ」につながっている例である。親友のカムパネルラは、母親と死別し、母の〈不在〉の中に生活し、ジョバンニの心情に共感することができ、よき理解者となっている。

吉本隆明（1989）は、ジョバンニの父親の不在について、次のように述べている。

4-4. ジョバンニの父親の不在 <吉本隆明（1989）『宮沢賢治』より>

作品「銀河鉄道の夜」で、主人公ジョバンニの父は〈不在〉になっている。そして〈不在〉が、そのまま何かのおおきな暗喩を背負っているのだ。なぜか同級生のザネリからは、おまえのお父さんからラッコの上着を送ってくるよ、としつこくからかわれる。ジョバンニじしんも父が〈不在〉のため、床についたきりの母をかかえて、学校がひけると活版所で働くことになっている。親友のカムパネルラは、いつも気の毒そうな、当惑した表情をジョバンニにむける。（中略）

なぜならジョバンニの父は作品の成立にはたいせつな存在なのだが、この「銀河鉄道の夜」の中心部に一度も姿をあらわしたことはないからだ。

そこで思い当たるのは、前述のモーリス・センダックの『父さんが帰る日まで』の絵本においても、船乗りの父親は、初めから最後まで「一度も姿をあらわしたことはない」。また斎藤隆介・作／滝平二郎・絵の『モチモチの木』においても登場人物は、老人と孫の豆太と医者だけで、豆太の父親は、老人の話の中には出てくるが、初めから最後まで「一度も姿をあらわしたことはない」。これらの作品は、吉本隆明（1989）の言う「父のいない物語」群に含まれるように思われる。

2022年度の「いじめの重大事態の発生件数」は、923件となっている。（文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より）

また、パソコンや携帯電話等での誹謗・中傷等のいじめ被害は、23,920件（2022年度）である。

忙しくしている人が自分の回復やリフレッシュのために自分のしたいことをする時間のことを「自分時間」と言う。思春期真っ只中のヤングケアラーにとって「自分時間」が取れないという問題は、深刻である。

自殺してしまう若者が多いことが、ニュースで報じられたりするが、自分の回復やリフレッシュのための「自分時間」が、いかに大切か考えてみる必要があるだろう。

2023年の小・中・高生の自殺者数は513人にのぼる。(厚生労働省及び警察庁「令和5年中における自殺の状況」より)

5. ヤングケアラーへの対応

看護学校でも「人間関係論」と「地域社会」の授業で、短期大学と同じようにヤングケアラーの問題を扱った。特に「人間関係論」という観点から扱い、以下のような反応が得られた。

5-1. ヤングケアラーへの対応の仕方：看護学生の反応（2024年）

- * ヤングケアラーの多さにびっくりしました。もしかしたら身近にいるかもしれないと思いました。ヤングケアラーの方がいたら少しでも力になれば良いなと思いました。(21歳・女性)
- * ヤングケアラーについて考えたことがなかったが、考えるきっかけになった。もし自分が病気になったとき、子どもをヤングケアラーにしないように気を付けたい。(29歳・女性)
- * 周囲にヤングケアラーは今のところいないと思うが、自分が親の介護をするときに来たら、よく考えるべきだなと思った。自分は、子どもの時から学校に行ったり、友達と遊んだりするのが当たり前だったけど、そうではない人もいるんだなと思った。(20歳・女性)
- * ヤングケアラー問題は、今に始まった問題ではなく、昔から存在しています。たくさんさんのネグレクトの母親を見てきました。子どもの貧困について考えたりするとともに、こども食堂でボランティアをしながら、毎回、考えさせられています。(46歳・女性)
- * 私の知っているヤングケアラーは、母が病気で寝たきりで、妹や弟の送迎もしながら、母の世話もすることだったので、様々なケアラーのパターンを知ることができた。(18歳・女性)
- * ヤングケアラーの話を見ると、子どもの時、子どもらしく甘えられず、大人にならないといけないため、愛着障がいになったりしないか考えました。(20歳・女性)

上記のように「ヤングケアラーの多さにびっくりしました」との感想が出ている。

上記の「自分が親の介護をするときに来たら、よく考えるべきだ」との考えは、前述の国分（1995b）の提案している「子親関係」という視点に立っていると言えるであろう。

「自分はヤングケアラーに当てはまる」と思う人の割合を「こども家庭庁」が「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」として発表している。以下の表1に再整理して示す。

表1. 「自分はヤングケアラーに当てはまる」と思う人の割合

調査対象	割合	調査年度
中学2年生	1.8%	2020年度
全日制高校2年生	2.3%	2020年度
定時制高校2年生相当	4.6%	2020年度
通信制高校生	7.2%	2020年度
大学3年生	2.9%	2021年度

こども家庭庁では、2022年度から2024年度までの3年間をヤングケアラー認知度向上の「集中取組期間」として、ポスターやリーフレットの配布、啓発動画の配信、特



設ウェブサイトの公開、学校向け出前講座の開催などを通じ、集中的な広報・啓発活動等を行っている。表1は、こども家庭庁が発足する以前の調査であり、こども家庭庁「集中取組期間」以前の結果なので、ヤングケアラー

についての認知度がよくはない状態での調査結果と言える。

ヤングケアラーが「家族のケアをこどもがしている」というより、さらに広く、細かく、具体的に範囲設定されていると知ったら、「それなら、私も…」とヤングケアラーとしての自認率が増えるのではないと思われる。

上の表1を見ても、全日制高校2年生2.3%＜定時制高校2年生相当4.6%＜通信制高校生7.2%と同じ高校生でも、全日制高校生より定時制高校生、さらに通信制高校生の方がヤングケアラーとしての自認率が増えていることがわかる。本来は、全日制高校に進学したかったのに、家庭の事情で定時制高校や通信制高校に進まざるを得なかったという背景があるのかもしれない。その家庭の事情というのが、一時的ではなく日常的に「家族のケアをこどもがしている」ことにより受験勉強ができない、学費の余裕がない、自身の将来を考える時間がないというような状況にあるとしたら、ヤングケアラーの負の側面（弊害）ということになるだろう。

前頁の5-1の中の「愛着障がい」とは、幼少期に養育者（身の回りのお世話をしてくれる人）とアタッチメントがうまく形成されなかったことによって生じる様々な困った症状の総称である。安全が脅かされる体験などのためにアタッチメント対象を

得られていない（養育者とアタッチメントがうまく形成されなかった）状態である。愛着（Attachmentアタッチメント）とは、生後間もない乳幼児期の頃に作られる、主たる養育者（多くは母親、場合によっては父親や祖父母など）との情緒的な深いつながり・絆のことを言う。（<https://reme-nomal.com/article/231121/>参照）

前々頁の5-1の中の「自分が親の介護をするときが来たら、よく考えるべきだ」との考えは、前述の国分（1995b）の提案している「子親関係」という視点に立っているとも言えるであろう。

渋谷智子（2018）は『ヤングケアラー—介護を担う子ども・若者の現実—』の中で、「イギリスでは、子どもや若者がケアの経験を通して得たプラスの影響にも目が向けられている」として、次に示すような利点をあげている。林（2024）は、箇条書きにして、表2のようにまとめている。

表2. 子どもや若者がケアの経験を通して得たプラスの影響 渋谷（2018）より

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①年齢の割に高い生活能力を身に付ていること②マルチタスクをこなせること③聞き上手であること④忍耐強いこと⑤病気や障がいについての理解が深いこと⑥思いやりがあることなど |
|--|

表2の②「マルチタスクをこなせること」というのは、ヤングケアラーが買い物、料理、掃除、洗濯、介護、きょうだいの世話など多岐に渡る仕事を一定の時間帯にこなせることを指している。

上記の表2のほかにも利点はあるだろう。ヤングケアラーを「子どもなのにかわいそうだ」と負の側面にばかり焦点化されてしまいがちで、児童虐待の文脈で語られることが多いが、必ずしも児童虐待に当たらない事例もあると思われる。

『銀河鉄道の夜』は、もちろん宮沢賢治の創作によるものであり、実話ではないが、主人公のジョバンニのモデルとなるような人物がいたとしたら、その人物は貧困の中にあっても、新聞記事を読み、活字拾いのアルバイトをする識字能力の高い少年である。諸外国から見ると驚異の能力の持ち主ということになるだろう。

6. 今後の課題

2023年4月1日に発足した「こども家庭庁」が、令和5年度「我が国におけるこども

をめぐる状況及び政府が講じたこども施策の実施状況」(令和6年版こども白書)を発表し、ヤングケアラーの問題を解決する方策を広く国民に示して、具体策を実行に移している段階である。

同「令和6年版こども白書」が、すでに国会に提出され、一般にも発表されている。その中には、第2部「政府が講じたこども施策の実施状況」として第4節「こどもの貧困対策」(教育の支援)(こどもの貧困に対する社会の理解促進)(生活の安定に資するための支援)(保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援)(経済的支援)などが示されている。

ヤングケアラーがクラスや学校で孤立していて、悩みを聞いてくれる友人もいないという孤立無援の状態にあるとしたら、問題である。ヤングケアラーのことを“気づかう”仲間が必要である。

こども家庭庁(2024)では、「新たな児童虐待防止対策体制総合強化プラン」(2022年12月15日児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議決定)において、2024年度までに児童福祉司を1,060人程度増員、2026年度までに児童心理司を950人程度増員すること」を目指している。

文部科学省は、ヤングケアラーへの支援として、様々な課題を抱えるこどもたちが適切な相談等を受けることができるよう、心理に関する専門的な知識を有するスクールカウンセラーや、福祉に関する専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを配置するなど、学校における教師と連携した教育相談体制の整備を支援している。スクールカウンセラーによる教育相談体制の充実が望まれるところであるが、週一回程度の学校訪問では、なかなか現実的な問題解決には至らないという懸念がある。臨床心理士とは別の「教育カウンセラー」の活用も検討されてしかるべきであろう。

こども家庭庁(2024)では、地方公共団体におけるヤングケアラーの支援体制の構築を支援するため、「ヤングケアラー支援体制構築モデル事業」において、関係機関と民間支援団体等とのパイプ役となる「ヤングケアラー・コーディネーター」の配置や、ピアサポート等の悩み相談を行う支援者団体への財政支援を行っている。

日本教育カウンセラー協会の推進する「ピアヘルパー」の認定と活用にも期待したいところである。(注6)

友人の相談を受けるとどうしても解決策を示したくなるが、問題の根本原因が、親子関係などの家続関係にあったり、家計の問題であったり、「子どもの貧困」だけでなく「親の貧困」ひいては「国の貧困」であるとしたら、個人の力ではいかんともしがたい。根本的な貧困対策が急務である。

仕事をしながら介護をしているビジネスケアラーは、2020年時点でおよそ262万人

いるとされ、2030年には318万人まで増加すると見込まれている。実際、介護が原因で離職している人は毎年7万人程度おり、ビジネスケアラーの増加により介護離職者も増加していくことが予測される。(経済産業省「第2回 企業経営と介護両立支援に関する検討」参照)

社会問題になっている人手不足が、ますます加速される懸念が生じる。

(注1) 日本では観客席から見て舞台の右側を「上手(かみて)」、左側を「下手(しもて)」というが、創生期の舞台は日が当たるよう南向きに作られ、日が昇る東側を上位と考えて上手、西側を下手、と呼んだ。登場人物の上手から下手への移動が順勝手とされ、主人公が順勝手に移動すれば前進、逆勝手なら帰還を表す。もともとは「順勝手」と「逆勝手」は茶道の用語と言われている。(詳しくは「英国ニュースダイジェスト」<http://www.news-digest.co.uk/news/columns/city/17613-1506.html>参照)

(注2) 予期せぬ事象は逆勝手から発生する。日本の絵巻物と英国のタペストリーと同じく英国の演劇も日本と逆向きになっている。(詳しくは「英国ニュースダイジェスト」<http://www.news-digest.co.uk/news/columns/city/17613-1506.html>参照)

(注3) 光村図書の小学4年生用道徳の教科書『道徳4—きみがいちばんひかるとき—』に『花さき山』が8頁のダイジェスト版で収録されている。頁数だけでなく、絵もだいぶ省略されている。光村図書のサイトで朗読も聞くことができる。(2024年2月5日発行)

(注4) 「ドデンする」は、秋田の方言で「びっくりする」の意味である。「どってんする」とも言う。「動転する」からきたと言われる。(佐藤亮一編『全国方言辞典』三省堂2009参照)

(注5) 底本：「銀河鉄道の夜」角川文庫、角川書店、1969(昭和44)年7月20日改版初版発行、1987(昭和62)年3月30日改版50版、入力:幸野素子、校正:土屋隆、2005年8月18日作成、2010年11月1日修正、青空文庫作成ファイル

(注6) 「ピアヘルパー」は、学生を対象とした日本教育カウンセラー協会認定資格である。「Peer」は「仲間」、「Helper」は「助ける人」。ピアヘルパーは直訳すれば仲間を助ける人という意味になる。青年や学生なら誰でも遭遇する問題の相談相手になる、あるいはピアグループ(たとえばボランティアも含む各種サークルなど)の世話役をつとめるのがピアヘルパーである。「ヤングケアラー・コーディネーター」の役割を担えると思われる。

ピアヘルパーのための参考図書としては、以下のような図書が出ている。

- * 『友達をヘルプするカウンセリング ピアヘルパーハンドブック』
 - * 『やって身につくカウンセリング練習帳 ピアヘルパーワークブック』
- いずれも日本教育カウンセラー協会編・図書文化社発行
- * 『「こころの教育」実践シリーズ3・思いやりを育てる内観エクササイズ』
- 国分康孝・国分久子監修・飯野哲郎編著・図書文化社発行

【参考文献】

- 大島由里子（1995）『色彩で自分を変えてみませんか』KKベストセラーズ
- 国分康孝（1995a）『幸せをつかむ心理学—発想を変えると人生がひらける—』ダイヤモンド社
- 国分康孝（1995b）『自分をラクにする心理学—こだわりを生かし、幸せをつかむヒント—』PHP研究所 p.38
- こども家庭庁（2024）『我が国におけるこどもをめぐる状況及び政府が講じたこども施策の実施状況』（令和6年版こども白書）
- 渋谷智子（2018）『ヤングケアラー—介護を担う子ども・若者の現実—』中公新書
- 中野信子（2020）『毒親—毒親育ちのあなたと毒親になりたくないあなたへ—』ポプラ社
- 林 伸一（2021）「アーサー・ビナードの翻訳絵本—『父さんがかえる日まで』論—」山口大学人文学部異文化交流研究施設発行『異文化研究』第15号、pp.12-31
- 林 伸一（2024）「絵本や紙芝居に見るヤングケアラーの問題—子供の人権について—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第74号、pp.85-98
- 吉本隆明（1989）『宮沢賢治 近代日本詩人選13』筑摩書房

【謝辞】

「山口の朗読屋さん」のメンバーに、本稿の草稿段階で読み合わせに協力していただき、貴重なアドバイスや意見、経験談などを聞かせていただいた。ここに深く感謝の意を示したい。

また、防府の山口短期大学、YIC看護福祉専門学校と小郡の吉南准看護学院の学生には、授業の「ふりかえりシート」に率直な感想や意見を開示してもらうことで、本稿ができたといってもいい。この場を借りて、心よりの感謝の意を表したい。